

検討の観点

内容の特色

1. 教科の目標、および学習指導要領などへの対応

(1)教科の目標達成が図られているか。

国語で理解し表現する資質・能力の育成 思考力・伝え合う力・言語感覚	○国語による 理解力 や 表現力 を育成し、 伝え合う力 、 豊かな言語感覚 を養うために、系統的な学習を意図して単元の目標やねらいを明確にし、 言葉による見方・考え方を働かせて 、児童が 自ら学び、自ら考える力 を身につけられるように配慮している。
--------------------------------------	---

(2)教育基本法や学校教育法への対応はどのようになされているか。

①共に生きる視点をもち、自ら学び・自ら生きる力を育成	○現代の諸課題に言葉の教育という側面からこたえ、新たな時代を切りひらいていくことのできる児童を育てることを主眼としている。国語科として、児童が言語活動をとおして、人(他者)と交わりながら共に生きていく視点をもち、持続可能な社会の創り手となるように、自ら学び、自ら生きる力を培えることを目指している。
②「伝え合う力」の育成と学び合い	○学習過程において、互いの立場を尊重しながら、課題の解決に向けて意見や感想、助言を述べ合う「 学び合い 」の場を設け、「 伝え合う力 」の育成を図っている。
③学ぶ意欲と豊かな心を育てる	○一人一人の児童が課題をもち、自ら学ぶ意欲をもつように教材を作成している。 ○社会の中で、「共に生きていく」視点をもち、お互いを尊重し合える心をもつこと、自らの未来に展望をもち希望をもつこと、これらを国語学習の中で育めるように教材化を図っている。 ○卒業を控えた6年生には、先達の思いや言葉にふれる教材を設けるとともに、郷土を愛し、我が国の言語文化に親しむ教材を位置づけている。 ○文学作品をとおして、想像力や豊かな心を育む教材を選定している。また、読書をもとに交流する読書関連単元を全学年設け、さまざまなジャンルや多様なテーマにふれ、交流することで、お互いの気持ちや考えを深め合うように意図している。
④自己を表現する文章を重視	○自己を見つめて表現することで、自分自身を理解すると同時に、お互いを理解し合うための場として、自己表現を主眼とする「 書くこと 」の教材を全学年設けている。コミュニケーションのための大切な機会として位置づけている。

(3)学習指導要領の改訂への対応はどのようになされているか。

言葉による見方・考え方を働かせ、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を高めるために、どのような対応がなされているか。	○理解力と表現力を高めるために、教材ごとに重点的に学ぶ事項を設定している。また、学習過程の中に見通しと振り返りの過程を位置づけることで、 主体的な学び を促している。更に、各教材に学び合いの場を設定し、 対話的 な協働学習の中で課題解決を図るようすることで、 深い学び を実現できるよう配慮している。
①年間を通した学びのストーリー ● 反復、繰り返し ● 日常生活に根ざし、日常生活に生かす	○単元・教材ごとに学習過程をおさえ、それぞれの単元が相互に関わるように並べることで、教科書全体の学習の流れや必然性を大切に展開、構成している。 ● 単元配列では、上巻の導入部から『ひろがる言葉 これまで これから』の振り返りまで、反復、繰り返しを図りながらステップアップするように一年間の学習を構成している。 ● 上巻の冒頭を「国語学習への導入」と位置づけ、「話すこと・聞くこと」のアイスブレイク教材や音読教材による学習開きを行う。また、「書くこと」の日常化(モジュール)教材を設け、帯単元として、年間の学習に位置づけられるようにしている。
②学習の系統性の重視 ● 学習の重点をまとめた「ここが大事」 ● 学習の見通しと振り返り ● 他教科での国語力の基礎に資する	○生きてはたらく言葉の力を育てる言語活動を開発し、各学年に系統的に位置づけている。 ○知識・技能、思考力・判断力・表現力等の学習が、バランスよく学期の中に位置づけられるように配慮している。また、全単元に、その 単元の学習目標・学習のめあてや、学習のてだてを明示 し、学習の 系統化や重点化 を図っている。 ● 領域・事項の中での系統化とともに、 領域・事項間の関連、連携 も視野に入れ、内容の配置を図っている。 ● 各教材での 学習のポイント や、そこで扱う 学習用語の解説 などを、「ここが大事」でまとめて解説し、内容の理解と定着を促すようにしている。 ● 各巻冒頭に『〇年生で学ぶこと』という、言葉の学習への意欲を高め、教材・学習事項などの内容を概観するページを設けている。各巻の終わりには『「ここが大事」のまとめ』『学ぶときに使う言葉』という、学習の重点や学習用語を整理したページを設けている。これらにより、その巻で学ぶ内容を、いつでも確認し振り返ることができるように図っている。 ● 系統立てた学習要素や、それをおさえ、振り返る『「ここが大事」のまとめ』『学ぶときに使う言葉』などを有効に使うことで、各教科での言語活動の指針や、内容のおさえなど、 他教科での「活用」にも広げることができる ように構成されている。
③学習過程の明確化 ● 「学習の進め方」の明示	○各領域のそれぞれの学習において、 主体的・対話的な学び の実現を促すために、学習者自身が「見通し」をもち「言葉による見方・考え方を働かせる言語活動」を展開し、「 ふり返ろう 」によって 深い学び を自覚できる学習の流れが視覚的に実感できるよう教材の特質に応じて構成している。 ○学習の過程がはっきりとわかるように、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元では、「 学習の進め方 」を教材の冒頭に明示し、「読むこと」の単元では、「 学習のてびき 」において学習のステップを提示している。

<p>④言語活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教材開発の視点 <p>●異学年交流、地域交流人との関わりの重視</p> <p>⑤語彙の量や質を拡充</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○課題を踏まえ、次のような観点から言語活動の開発を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ●課題を解決するために必要な、思考力・判断力・表現力等を身につけることのできる言語活動の開発。 ●言語や言語活動に関する意識を育て、基礎的・基本的能力を習得する言語活動の開発。 ●児童が自ら課題を捉え、追究し、日常の言語生活に活用することのできる言語活動の開発。 ●児童の関心・意欲を契機とする、学習活動の単一的展開の工夫。 ●豊かな言語生活への展開を志向する、学習の生活化・総合化の工夫。 ○必然性が高く、かつ必要とされる言語活動については、他教科での学習内容も視野に入れながら、校内、地域など、社会に広がる活動も適切に配置している。 ○低学年では、身近なことを表す語句の獲得を旨とした教材を配置している。中学年では、様子や気持ちを表す語句に着目することを「読むこと」の「学習のてびき」で提示している。高学年では、思考に関わる語句や文型を教材中の「大事な言い方」にまとめている。 ○各巻で、「学習のてびき」の「言葉」「言葉を増やそう」や、巻末の「言葉の木」において、語彙拡充のために語句をまとめて示している。 ○単に語句を列挙するだけでなく、さまざまな文脈・場面で言葉を学ぶことで、実際の言語生活へ生かすことができるよう配慮している。
<p>⑥情報主体としての資質・能力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○話や文章から情報を取り出して整理したり、情報と情報との関係を捉えたりする資質・能力を培うため、情報を扱うための文型や話型の例を、「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材の「大事な言い方」や、「読むこと」教材の「ここが大事」で示している。 ○説明文の読みにおいて、情報を取り出し、情報と情報との関係を捉える学習活動を設定している。更に、付録『情報のまとめ』『大事な言い方』を確かめよう』と連携し、情報の扱い方をまとめることができるようにしている。
<p>⑦我が国の言語文化に関する指導の重視</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年に、原則として、古典作品にふれる系統の二つの教材と、季節の風物や言葉遊びなどの言語文化に目を向ける二つの教材を系統的に配置している。高学年には、言葉の変化や由来についての教材も配している。
<p>⑧読書に親しみ、読書生活への基盤を築く</p> <ul style="list-style-type: none"> ●2系統の読書関連教材 ●「読むこと」教材から読書活動へ ●付録の図書紹介の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○各教材、各学習のさまざまな段階から、読書へと発展させることができるようにしている。 ○学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図るための情報活用教材を、発達段階を考え全学年に設けている。また、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うことができるように、図書紹介を中心とした交流活動を行う読書交流教材を全学年にわたって設けている。 ○「読むこと」教材の「学習のてびき」には、その教材の作品と同一の作者・筆者による別作品や、内容や話題、テーマに関連する作品を、表紙の写真とともに紹介している。 ○各巻の付録にも図書紹介のページを設け、多様なテーマの図書を紹介した。(6学年合計約540冊) <ul style="list-style-type: none"> ●「情報センター」としての学校図書館の整備及び活用の一環として、図書選定の一助となることを期待して設けている。
<p>⑨文字指導の内容の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ●言葉として指導(一上) ●熟語の表記 ●ローマ字 	<ul style="list-style-type: none"> ○入門期(一上)においては、平仮名の初出において、言葉のまとまりごとに書き文字で提示し、語彙学習としても位置づけるようにしている。 ○低学年での平仮名・片仮名の習熟のため、まちがえやすい平仮名・片仮名を取り立てて指導している。 ○熟語などの表記については、適宜、上位学年の漢字をルビ付きで使用し、不自然な交ぜ書きを避けるようにしている。 ○ローマ字は、日常目にする看板やコンピューターの話題を盛りこんだ教材化を図っている。

2. 教科書の構成と内容

<p>(1)全体の構成・配列</p>	
<p>①単元や教材の構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「関連単元」と「基本単元」 <p>②児童の発達段階と内容の考慮</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1・2年 ●3・4年 ●5・6年 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導内容を螺旋的・反復的に繰り返して学力向上を図った指導ができるように、学年間と学年を通しての系統的な単元構成を意図している。 ○複数の領域を関連させて効果的に学習を図る「関連単元」と、一つの領域に集中して学習する「基本単元」をバランスよく組み合わせている。 ○年間の学習では、一つの領域を重点的に学習する「基本単元」を基本とするが、主として「話すこと・聞くこと」「書くこと」で、領域を関連させて効果的に展開する「関連単元」を設定している。 ○単元数は、系統の展開をおさえながら、学年の発達段階や時数に応じた構成にしている。 <ul style="list-style-type: none"> ●身近な話題や、動物の登場するお話など、親しみやすい題材を取り上げ、経験に照らして活動できるように配慮している。 ●活動や調べ学習の広がりにあわせて、できるだけ多様な話題・題材を取り上げ、知的好奇心の高まりに配慮している。 ●さまざまな立場によるものの見方や考え方にふれ、自分のものの見方や考え方を広げたり深めたりすることができるよう、多様な考え方や立場を取り上げるように意図している。
<p>③教材数など</p> <ul style="list-style-type: none"> ●言葉の特徴や使い方に 関する教材数 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年の配当時数、発達段階、教材間の連携を踏まえて、無理のない教材配列を設定している。(下記は「一上」を除いた、のべ教材数) ○本文：93教材／付録：55教材

<ul style="list-style-type: none"> ●情報の扱い方に関する教材数 ●「我が国の言語文化」に関する教材数 ●「話すこと・聞くこと」教材数 ●「書くこと」教材数 ●「読むこと」教材数 	<ul style="list-style-type: none"> ○本文：51教材／付録：11教材 ○本文：39教材／付録：14教材 ○本文：29教材／付録：1教材 ○本文：37教材／付録：8教材 ○[説明的文章] 23教材／付録：2教材 ○[文学的文章] 27教材／付録：7教材 ○[詩] 22教材 ○約540冊（学年平均 約90冊）
<ul style="list-style-type: none"> ●紹介図書数 	
④2学期制・3学期制に対応	○2学期制・3学期制のどちらにも対応できるように、単元・教材の配列や領域の配分を考慮している。

(2)教材選定

①教材選定の観点

<ul style="list-style-type: none"> ●「不易」と「流行」 ●豊かな人間性・社会性 ●多様性への理解 ●生命の尊重 ●科学的・論理的な考察 ●環境教育・自然保護 ●国際協調や平和 ●豊かな情操 ●心の発達 ●安全・安心・防災 ●郷土や地域を愛する心 ●勤労の意義とものづくり ●食育 ●先達の言葉や生き方にふれる ●情報活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に他教科と関連させうる内容・構成に配慮して、以下のポイントを考慮した教材選定を行っている。 ○日本人としての情緒を育む言語文化として受け継ぐ価値のある内容と、現在に生きる児童の関心をもとに生き方を考える内容とを取り上げている。 ○社会の中の人間を見据え、社会性を育てるための教材 <ul style="list-style-type: none"> *「話すこと・聞くこと」の各単元：話し合い・討論の系統（一下～六下） *「書くこと」の各単元：記録文・報告文・意見文の系統（一下～六下） *説明的文章の各単元：『みぶりでつたえる』（一上）、『くらしと絵文字』（三下）、『くらしを便利にするために』（四下）、『言葉と事実』（五上）、『世界遺産 白神山地からの提言——意見文を書こう』（五下） ○『けんかした山』（一上）、『アレクサンダとぜんまいねずみ』（二下）、『おにたのぼうし』（三下）、『くらしを便利にするために』（四下）、『みすゞさがしの旅——みんなちがって、みんないい』（五下）、『ぼくの世界、君の世界』（六下） ○『てんとうむし』（二上）、『さがが大きくなるまで』（二下）、『わすれられないおくりもの』（三上）、『ウミガメの命をつなぐ』（四下）、『イナゴ』（六上） ○『すみれとあり』（二上）、『うめぼしのはたらき』（三上）、『川をつなぐちえ』（三下）、『ぞうの重さを量る』『花を見つける手がかり』（四上）、『ウミガメの命をつなぐ』（四下）、『雪は新しいエネルギー——未来へつなぐエネルギー社会』（六上） ○『リーフレットでほうこく』（四上）、『ウミガメの命をつなぐ』（四下）、『世界遺産 白神山地からの提言——意見文を書こう』（五下）、『雪は新しいエネルギー——未来へつなぐエネルギー社会』（六上） ○『一つの花』（四上）、『川とノリオ』（六上）、『世界へはばたけ』（六下図書紹介） ○『うみへのながいたび』（一上）、『はるねこ』『わにのおじいさんのたからもの』（二上）、『かさこじぞう』（二下）、『おにたのぼうし』（三下）、『白いぼうし』（四上）、『大造じいさいとがん』（五上）、『きつねの窓』（六下） ○『けんかした山』（一上）、『アレクサンダとぜんまいねずみ』（二下）、『おにたのぼうし』（三下）、『ごんぎつね』（四下）、『いつか、大切なところ』（五上）、『きつねの窓』『ぼくの世界、君の世界』（六下） ○『くらしと絵文字』（三下）、『くらしを便利にするために』（四下）、『パネルディスカッション——地域の防災』『みんなで作ろうパンフレット』（六上）、『命を守る・暮らしを守る』（六上図書紹介）ほか <ul style="list-style-type: none"> *東日本大震災に関連する教材：『短歌や俳句を楽しもう』（五上付録）に、復興への思いをよんだ児童作品を掲載している。 ○学習をとおして郷土や地域を大切に思う気持ちや誇りをもてるように配慮している。 ○「話すこと・聞くこと」の教材：地域の人たちに取材する教材『ちいきの行事』（三下）、『すいせんしよう「町じまん」』（五上） ○「書くこと」の教材：全国各地の児童作文・詩を取り上げ、地域に根ざした特色ある視点を指導に位置づけられるように意図している。 ○地域独特の文学作品の紹介……「楽しいお祭り・行事」（三下図書紹介）、『伝えられてきた作品』（六下付録） ○方言の特色を知り、日常の言語を見直す教材。『方言と共通語』（五上） ○『ジャンプロケットを作ろう』（二下）、『取材したことをほうこく文に』『自分の気持ちを手紙に』（三上）、『津田梅子——未来をきりひらく「人」への思い』（六下）、『作家 梨木香歩さん』（六上付録）、『作詞家・作曲家 梶浦由記さん』（六下付録） ○『あかるいあいさつ』（一上）、『うめぼしのはたらき』（三上）、『「対話」というやりとり』（五上） ○『みすゞさがしの旅——みんなちがって、みんないい』（五下）、『言葉と私たち』『津田梅子——未来をきりひらく「人」への思い』（六下）、『正岡子規』（六下付録） ○情報活用を重点的に学習する「書くこと」（情報活用）単元を設け、情報を収集し、選び、まとめる活動を取り上げている。 ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材の「大事な言い方」や、巻末付録『「大事な言い方」を確かめよう』で、情報を扱う文型・話型を提示している。また、文章を情報として読むためのでたてを、「読むこと」教材「学習のてびき」の「ここが大事」で示すなどしている。
---	--

<ul style="list-style-type: none"> ●プログラミング的思考 ●ビジュアルリテラシーへの配慮 ●「読むこと」読書関連教材 	<ul style="list-style-type: none"> ○『この間に何ががあった?』(二下)は、前の写真と後の写真の間にあったできごとを考え、因果関係の思考を整理する。『作ろう!「ショートショート」』(四上)や『あなたは作家』(六上)などの創作教材では、話の展開を考えることで、思考の流れを整理している。 ○『みぶりでつたえる』(一下)、『ジャンププロケットを作ろう』(二下)、『川をつなぐちえ』(三下)、『ウミガメの命をつなぐ』(四下)、『世界遺産 白神山地からの提言——意見文を書こう』(五下)、『アイスは暑いほどおいしい?——グラフの読み取り』『雪は新しいエネルギー——未来へつなぐエネルギー社会』(六上)など、図表や写真と文章を合わせて読む教材も配している。 ○図書館利用や本の見方、新聞などの多様な情報の扱い方を取り上げ、調べ学習などの基礎的な知識の広がりを図っている。また、メディアリテラシーへの意識を促す教材(『言葉と事実』五上)も提示している。
<ul style="list-style-type: none"> ②道徳への対応 ③他教科・他領域との関連 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育基本法や学校教育法への対応を踏まえ、各領域・事項の教材で、生命・平和・友情・福祉・環境・公共・心の発達などに関わる話題・題材を取り上げている。 ○話題・題材や言語活動など、多様な観点から、他教科の学習で活用できるように配慮している。 <ul style="list-style-type: none"> *社会科：「話すこと・聞くこと」話し合い・討論の系統・「書くこと」意見文の系統 *生活科・理科：「書くこと」の各単元(記録文・報告文) *理科および社会科・総合：説明的文章『はたらくじどう車』(一下)、『すみれとあり』(二上)、『くらしと絵文字』(三下)、『ウミガメの命をつなぐ』『くらしを便利にするために』(四下)、『言葉と事実』(五上)、『世界遺産 白神山地からの提言——意見文を書こう』(五下)、『雪は新しいエネルギー——未来へつなぐエネルギー社会』(六上)
<ul style="list-style-type: none"> ●カリキュラム・マネジメントへの対応 ④幼稚園・保育所との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○表現に関する教材を中心に、他教科の学習に合わせて柔軟に取り組むことにより、他教科の学習を下支えすることができるよう考慮されている。他教科の学習という実際の言語活動に活用されることで、実の場で生きる言葉の力を育むことにも通じる。 ○入門期を中心に、幼稚園や保育所との連携を図り、学校生活に無理なく導入が図れるように、学習要素をスモールステップで提出したり、復習・振り返りの教材を設け、確実に習得できるように配慮している。 ○入門期の最初の教材は、児童の緊張した心をほぐすため、ファンタジックな展開の優しい絵話を設定している。また、入門冒頭は、スタートカリキュラムの考え方を取り入れ、特に生活科との連携を意識した構成になっている。
<ul style="list-style-type: none"> ●スタートカリキュラムへの配慮 ⑤中学校との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校で習得した事柄が中学校で無理なく活用できるように、着実に習得するための丁寧な説明や、振り返りのステップを明確に位置づけている。 ○中学校での活用場面に備え、小学校で習得した事柄を児童自らが自覚するために、『「ここが大事」のまとめ』や『学ぶときに使う言葉』で学習した事項と学習用語を提示し、「これから何を学ぶのか」「これまで何を学んだのか」をいつでも確認できるようにしている。 ○6年生で学んだ漢字が、中学校で着実に書けるようになるため、新出漢字を学ぶ段階でできるだけ習熟を図れるよう、領域の教材以外の場にも漢字指導のための教材(『漢字の広場』)を設けている。 ○中学校で学習する「小倉百人一首」や古典作品、近代の著名な作品について、先人たちのもの見方や考え方を示し、中学校での古典学習への円滑な接続を図っている。 ○教育出版の中学国語教科書とは、学習のポイントをまとめて示すことで、さまざまなスキルや着眼点の積み上げができるように図られている。

3. 領域・事項などの内容と特色

<h4>(1)入門期</h4>	
<ul style="list-style-type: none"> ●基礎・基本の徹底 ●伝え合う力の重視 ●スタートカリキュラムへの配慮 ●内容・学習の展開 <ul style="list-style-type: none"> ●平仮名習得 ●片仮名習得 ●漢字学習の導入指導 ●書写指導との関連 ●話すこと・聞くこと ●書くこと ●読むことのステップ 	<ul style="list-style-type: none"> ○平仮名提出は7月まで、片仮名・漢字は9月以降とし、片仮名は平仮名と対応させながら、適宜平仮名の復習も行いながら、両者の確実な定着を図っている。 ○入門期は、楽しい言語活動をとおして、最も基礎的な力を身につけていく時期として、特に、「あいさつの言葉」を大切にし、日常的なコミュニケーションを円滑に図れるように配慮している。 ○入門期冒頭は、スタートカリキュラムの考えを取り入れ、書写や生活科との連携を意識した教材を配置している。 <ul style="list-style-type: none"> ●平仮名の読み・書きが系統的・段階的に学習できるよう、言語の事項を学習する教材を領域の教材のあとに位置づけ、取り立て指導ができるようにしている。 ●清音(母音→子音)→濁音→半濁音→撥音→促音→拗音と段階をふんでいる。 ●片仮名の学習は、平仮名の要素を提出し終えてから教材化し、平仮名とまぎらわしいものは、注意を促すようにしている。 ●一上では、簡単な象形文字を10字と指示文字2字、会意形声文字1字および漢数字を提示し、書く活動などとおして定着を図っている。 ●書写(書き方)の学習との関連を意識した運筆や書字姿勢を提示し、弊社書写教科書と同じ書き文字を使用している。 ●あいさつから対話、常体・敬体表現の意識づけ、グループでの独話、クラスでの発表へと段階をつけ、話すことと聞くことの基礎が身につくようにしている。 ●主語・述語を意識した活動から助詞の「は」「を」「へ」を学び、更に短文作りを経て絵日記指導へとスモールステップで、何度も振り返りながら、文章を書くステップをふんでいる。 ●文学的文章・説明的文章ともに、段階をつけて導入を図っている。 ●読み聞かせから好きな本の紹介、学校図書館に親しむ教材を経て『おおきな かぶ』『けんかした山』へと展開し、読書に親しむ態度を育てるように工夫している。

(2)知識 及び 技能

①言葉の特徴や使い方に関する事項

● 系統的な配置

● 漢字

● 脚注や「学習のてびき」、付録などで語彙指導

● 「言葉教材」の設置

● 学習用語と学習事項の系統化

②情報の扱い方に関する事項

● 情報と情報との関係

● 情報の整理の仕方

③我が国の言語文化に関する事項

【伝統的な言語文化】

● 1・2年

● 3・4年

● 5・6年

【読書に親しむ系統】

● 系統・系列

● 上巻

● 下巻

● 巻末付録の図書紹介

● 本を読もう （「学習のてびき」）

○ 日常の言語生活から題材を取り上げ、活動をとおして言語的な知識についての理解を促し、再び児童自らの言語生活に還元できるように配慮している。

● 「言葉の動き」「話し言葉・書き言葉」「語彙」「文や文章」「言葉遣い」「言葉の由来や変化」の6系統に基づき、児童の興味に即して展開している。

● 系統的・重層的に繰り返し学習ができるように、漢字を専門に学習する教材『漢字の広場』を学年に6か所（1年は4か所）設け、確実な習熟を図っている。

● 社会科で4年生の1学期に都道府県についての学習が行われることを鑑み、都道府県名に使われる漢字は、4年生の1学期終盤にまとめて学習するようにしている。

● 「読むこと」の脚注や「学習のてびき」の中の言語専用のコーナー「言葉」「言葉を増やそう」では、文脈の中で特徴的な語句の使い方を取り上げ、読みを深めることや自らの表現活動に活用できるように配慮している。各巻付録「言葉の木」では、語彙拡充として、連想しながら言葉を増やしていく教材を配置している。

● 言語についての興味・関心を高め、言語のはたらきについて、児童が活動をとおして実感的に考える教材を、各学年に設定している。

● **学習用語**は系統化を図って配置している。巻末『「ここが大事」のまとめ』『学ぶときに使う言葉』のページで、**適宜学習事項**（学習指導要領の指導事項に対応）と学習用語を抜き出し、簡潔にまとめている。

○ 「思考力、判断力、表現力等」の各領域の基本単元において、言語および言語活動による情報活用能力を育成するため、情報を主体的に捉え、何が重要かを判断し、それらを活用しながら問題の発見・解決や情報の発信に必要な技能を、他者と協働して主体的に身につけるよう「学習のてびき」を構成している。

○ 話や文章を理解したり、話や文章で表現したりするために、**情報を取り出し**たり、**情報と情報との関係を整理**したりすることができるように配慮した教材を設けている。

● 低学年の「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材の「大事な言い方」において、**順序を表す文型**や**共通を表す文型**を示している。

● 「読むこと」教材では、中学年「学習のてびき」の「ここが大事」で、**全体と中心**を読み取るポイントを提示したり、高学年の説明文で、**原因と結果**の述べ方を学び、巻末の『「大事な言い方」を確かめよう』で要点を確認できるようにしたりしている。

● 中学年の「話すこと・聞くこと」教材の話例などで、意見を**比較・分類**する例を示している。また、巻末『「大事な言い方」を確かめよう』で、比べるときの言葉の例を提示している。

● 高学年のさまざまな教材で、**情報と情報を関係づける**ための意識づけを行い、話型などの例を示している。

● 全巻巻末「言葉の工具箱」において、『情報のまとめ』として「情報と情報との関係」「情報の整理」に関し、各巻の提出教材と結びながら示している。

○ 昔話・神話から近代文学までの、必ずふれておきたいスタンダードな作品を取り上げ、学習指導要領の系統にそった配置をしている。

○ 音読・暗唱に適した古文・漢文から、四季折々の美しい言葉を味わう小教材や、昔から親しまれてきた言葉遊びなどの小教材を位置づけ、日本語のリズムや響きを味わえるようにしている。

* 昔話や民話、神話（読み聞かせ）

* 言葉遊び・いろはうた

* 短歌・俳句・ことわざ・慣用語・故事成語

* 季節の言葉・季語

* 古文・漢文・近代文学

* 四季の言葉・言いまわし

* 伝統芸能・短歌・俳句

○ 上巻と下巻にそれぞれ読書関連教材を設けている。

● **情報検索・情報活用**を中心とした読書教材。

● **読書体験の交流と、表現活動**を中心とした読書教材。

● 各巻巻末の付録には、学年の発達段階に応じて**テーマごとに多様な図書**が紹介され、児童の興味・関心・意欲を引き出す内容となっている。

● 「学習のてびき」には「本を読もう」を設置し、**同一作者の別の作品や関連する話題・内容の本などを取り上げて紹介し**、読書に広げる機会を設けている。

(3)思考力、判断力、表現力等

①話すこと・聞くこと

目的意識、必然性・必要感と意欲を重視

● 目的に応じて活動を選ぶ視点

● 学習の進め方を提示

● 聞き方も重点化

○ 日常生活や学校生活に関連した場を設定し、児童の実生活に結びついた活動となるよう工夫するとともに、目的意識や必然性・必要感と児童の意欲を重視した教材を設定している。

○ 学習活動が、どのような特徴をもち、どのような場面で行うと効果的なかを提示することで、目的に合った方法を身につけ、教科書以外の場面で活用できるように意識づけを図っている。また、適宜視聴覚機器も取り入れるようにしている。

○ 学ぶ内容や展開が指導者にも学習者にも明確にわかるように構成している。

○ 話し方だけでなく、**聞き方を重点化した教材**を設置し、日常生活での話の聞き取りに活用できるようにしている。

- 交流（学び合い）の重視
共有による学びの深化
振り返りによる学びの深化
- 系統・系列
 - 日常化を図る系列
（4月 導入教材）
 - スピーチ系列
 - 話し合い系列
 - 説明・報告系列

②書くこと

目的意識、相手意識、意欲を重視した言語活動

- 交流（学び合い）の重視
共有による学びの深化
振り返りによる学びの深化
- 系統・系列
 - 日常化を図る系列
（4月 導入教材）
 - 課題追求、論理的に書く系列
 - 自己を表現する系列
 - 実用的な「書くこと」の系列
 - 創作活動の系列
- 他領域・他教科での扱い

③読むこと

目的に応じた「読み」の力の育成

- 学習過程の明確化
- 「考えの形成」の重視、対話的な学び
- 交流（学び合い）の重視
共有による学びの深化

【説明的文章】

- 系統・系列、教材
 - 正確に読む系統（上巻）
 - 論理を考える系統
（下巻）
 - 情報を生かす系統
（下巻）
- 話題と学年の系統
 - 1・2年
 - 3・4年
 - 5・6年

- スピーチメモや練習の段階などで、児童どうしが感想を述べ合ったり、助言し合ったりして、自らの発表内容を見直す視点を示したり、活動後に、感想を交流し、**自己評価・相互評価**する機会を設けたりしている。
 - 上巻の最初の単元を「国語学習への導入教材」と位置づけ、発話や動作化に慣れるための小教材を設定している。日常化を図り、モジュール化し帯単元としても、年間の学習に位置づけられるようにしている。
 - 話題の選び方や話の構成の仕方のほか、言葉遣いの工夫や音声面での留意点を示している。
 - 課題解決に向け、合意形成能力や人間関係形成能力を育て、課題に対する見方や考え方を深められるように意図している。
 - 資料をもとに、説明・紹介・報告などの活動を効果的に行えるように意図している。また、それらの活動のよさや感想を交流し、次への展望をもつようにしている。
- 目的がはっきりした**実用的な文章**から、自分の心と向き合う**自己を表現する文章**までの多様な文種について、表現の全過程を見据え、教材の重点に応じて取り立て指導を位置づけて展開している。
 - 各単元・教材において、目的意識、相手意識を踏まえて、どのような手順で学ぶのか、学習の過程が指導者にも児童にも意識できるように配慮した。
- 組み立てメモや推敲の段階などで、児童どうしが感想を述べ合ったり、助言し合ったりして、自らの表現内容を見直す視点を示したり、学習後に、感想を交流し、**自己評価・相互評価**する機会を設けたりしている。
 - カード・メモの活用・ノート指導・日記などの短時間の活動（1回15分程度のモジュール）を日常的に帯単元的に行えるように教材化している。（1年は下巻）
 - 経験を報告する文章や、対象を観察して記録・説明・紹介する文章、自己の意見を表現していく系列を、重点的に取り立てられるように位置づけている。
 - 児童が自分を見つめ、自分の心と向き合うこと、自分の在り方や生き方を深く考える機会として、全学年自己表現の系列を設けている。
 - 手紙や新聞、ポスター、パンフレットなどの各活動において話題・題材を幅広く選定し、さまざまな場面で活用できるようにしている。
 - 創作文や児童詩の系統を、全学年で位置づけている。発達段階を踏まえて、文学的な深みのある表現に達するように内容を精選化し、題材や構成を工夫している。
- 他の領域・事項でも多様な書く活動を取り入れており、より多様な表現活動が体験できるように意図している。また、他教科での表現活動にも資するように配慮している。
 - 文章の特徴を効果的に引き出し、単元の学習の目的に応じた読みを意識づけ、読みの観点やノートのまとめ方などの学習スキルを系統的に提示している。
 - 「学習のてびき」は、「言葉による見方・考え方」が働くように系統的に読みの観点を配置し、学習過程（学習の流れ）を明確にした構成にしている。
 - 「学習のてびき」は、学習者が自らの考えを形成し、深化・拡充させられるよう学習活動を設定している。また、想定される児童の発言例を示すことで、対話的な学習のイメージを提示している。
 - 「学習のてびき」のそれぞれの学習過程において、児童の反応例を示すことで、児童どうしが意見を述べ合ったり、助言し合ったりして、自らの考えを見直したり、より思考を深めたりする学びが展開できるようにしている。
 - 説明するということへの認識を深め、**説明する力が養える**よう、説明の展開の仕方を単純なものから複雑・高度なものへと、**段階的に**ふれられるように配慮している。
 - 自然現象や動植物への理解を促す教材、論理的思考力を育てる教材など、学年にふさわしい話題・題材とともに、系統化を図っている。
- 正確に読み取り、捉えた情報を選択・吟味し、発信するように設定している。
 - **情報活用の教材と関連させても展開できる教材**
 - *二上『すみれとあり』+『本でしらべよう』
 - *三上『めだか』+『本をさがそう』
 - *四上『花を見つける手がかり』+『分類をもとに本を見つけよう』ほか
- 文章の内容を理解し、構成に着目しながら論旨を読むことを重点的に行うように意図している。
 - **「書くこと」の教材と関連させた教材**
 - *一下『はたらくじどう車』+『「のりものカード」でしらせよう』ほか
 - **「書くこと」の教材と関連させても展開できる教材**
 - *二下『ジャンプロケットを作ろう』+『おもちゃのせつめい書を書こう』ほか
- 文章の記述の仕方から、筆者の考えを読み取っていくことを主眼としている。
 - **「話すこと・聞くこと」の教材と関連させた教材**
 - *三下『くらしと絵文字』+『わたしたちの絵文字』
 - *四下『くらしを便利にするために』+『「便利」をさがそう』
- 身近な自然やできごと・身のまわりや生活に目を向ける
- 人間も含めた、自然界の営み
- 自然と人間、人間と人間の関わりを考える

<p>【文学的文章】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 系統・系列、作品 <ul style="list-style-type: none"> ● 声に出して言葉と出会う (上巻鑑賞詩) ● 命・平和について考える ● 言葉の楽しさ・美しさを読み味わう (下巻鑑賞詩) ● 友情・協力 ● 民話・昔話 ● 言語文化 (伝統芸能) ● 自己実現・自己の成長 <ul style="list-style-type: none"> ● 文語詩 ● 脚本 ● 伝記 <ul style="list-style-type: none"> ● ファンタジー ● 随筆 <p>全学年・全巻をとおして読書につなげる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもが主体的に作品に関わりながら、新たな言葉の世界と出会い、読む楽しさを味わうことができるようにしている。そのために、優れた言語文化としての作品を選定した。 ○ 文学的文章に出会った児童が、優れた作品を読み深めながら、言葉をとおして自分自身について考えたり、他者との関わり方や、自分を取り巻く社会に目を向け、人としての生き方について学んだりすることができるような作品を各学年に取り入れている。 ○ 多様な文種の中から児童の発達段階に合わせた優れた作品を選定し、日本語のもつ美しさ、豊かさを実感すると同時に、言語感覚を刺激し、磨いていくための場を多数設けている。 <ul style="list-style-type: none"> ● 『たのしく よもう』(一上)、『ちいさい おおきい』(二上)、『かえるのびよん』(三上)、『春のうた』『あり』(四上)、『水平線』『うぐいす』(五上)、『風景 純銀もざいく』(六上) ● 『てんとうむし』(二上)、『わすれられないおくりもの』(三上)、『一つの花』(四上)、『大造いさんとがん』(五上)、『川とノリオ』『イナゴ』(六上) ● 『あめのうた』(一下)、『せかいじゅうの海が』(二下)、『おおきな木』(四下)、『雪』(五下)、『紙風船』(六下) ● 『スイミー』『お手がみ』(一下)、『ないた赤おに』『アレクサンダとぜんまいねずみ』(二下) ● 『むかしのうたを 読もう』(二上)、『かさこじぞう』(二下) ● 『落語 ぞろぞろ』(四上)、『狂言 附子』(五下付録) ● 『スイミー』(一下)、『モチモチの木』(三下)、『いつか、大切なところ』(五上)、『ぼくの世界、君の世界』『津田梅子——未来をきりひらく「人」への思い』(六下) ● 『素朴な琴』『鳴く虫』『山のあなた』(五上)、『雪』『はたはたのうた』(五下) ● 『人形げき 木竜うるし』(四下)、『狂言 附子』(五下付録) ● 『みすゞさがしの旅——みんなちがって、みんないい』(五下)、『津田梅子——未来をきりひらく「人」への思い』(六下)、『正岡子規』(六下付録) ● 『白い花びら』(三上)、『雪わたり』(五下)、『きつねの窓』(六下) ● 『「迷う」』(六下)、『薫風』(六下付録) <ul style="list-style-type: none"> ○ 各教材や読書教材および各巻の付録に図書紹介のページを設け、多様なテーマの図書を紹介している。(各学年平均約90冊を紹介)
---	---

<p>(4)付録</p>	
<p>巻末付録教材の構成と内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 個に応じた指導、家庭学習の場にも対応 <ul style="list-style-type: none"> ● 系統・系列 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語学習に関わるさまざまな指導事項や言語活動を幅広く取り上げている。 ○ 単元教材や小教材の学習を深めたり、個に応じた学習や家庭学習で、また、他教科で言語活動を取り上げる際の参考や支援となるように意図している。 ○ 本文中で学んだ汎用性のある学習スキルを、『「ここが大事」のまとめ』『情報のまとめ』『学ぶときに使う言葉』などで系統的に整理している。繰り返し参照することによって、確実な知識の定着を図っている。 ○ 以下のような要素を取り上げている。 <ul style="list-style-type: none"> ● 辞典、語句・語彙、文字、表記などに関する資料。 ● 電話のかけ方など、「話すこと・聞くこと」に関するもの。 ● ノートやメモ、原稿用紙の使い方、手紙の書き方など、「書くこと」に関するもの。 ● 補足的に読める作品や学年に応じた図書紹介。 ● 俳句・短歌・近代文学の名作など、伝統的な言語文化に関わるもの。 ● 電子メールやアンケートの取り方など、情報教育に関わるもの。 ● 作家・作詞家など、言葉に関わる職業への興味を喚起するもの。

4. その他の学習・指導への配慮

<p>(1)文字・表記・図版・資料</p>	
<p>①文字、活字、書体 (書写との関連)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ユニバーサルデザインフォント <p>②表記</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 分かち書き ● 文節での改行 ● ふきだし内の改行 ● 交ぜ書きの回避 ● 原典尊重 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活字は文字としての美しさを考慮しながら、読みやすく、力強い教科書体を用いている。また、巻末の漢字一覧で掲出している硬筆体は、書写教科書の筆者の字を使用し、学習上の関連を図っている。 <ul style="list-style-type: none"> ● デジタル機器で表示した際の視認性が向上した、読みやすい、新しいフォントを採用している。 ○ 表記・表現については、全学年にわたって統一し、正しい表記の仕方・用法が身につくように学年の発達段階を考慮して提示している。 <ul style="list-style-type: none"> ● 2年生の上巻(夏休み前までの学習時期にあたる教材)までは、児童が読む際の負担感を除くために、分かち書きで表記している。 ● 1年生は、支援が必要な児童が読む際の負担感を除くために、文節単位で改行し、文脈の中での意味のまとまりが理解しやすいように配慮している。 ● 全学年にわたってふきだし内の改行位置を工夫し、多様な特性をもつ児童が、言葉をまとまりとして捉えられるように配慮している。 ● 上位学年の漢字であっても、熟語の形で提出したほうが定着しやすいため、過度な負担感を抱かないよう注意しながら、適宜振り仮名を使用し、違和感のある交ぜ書きをできるだけ避けるように配慮している。 ● 文学作品、特に短歌・俳句・詩教材は、原典を尊重し、なるべくそのまま表記することを原則としている。

<ul style="list-style-type: none"> ● 片仮名表記 ● 漢字学習 <ul style="list-style-type: none"> ● 新しく学んだ漢字 ● 前巻までに学んだ漢字 ● 伝統的な言語文化に関する教材 <ul style="list-style-type: none"> ● 漢字 ● 送り仮名 ● 作者名 ● 古文（3～4学年） ● 古文（5～6学年） ● 漢文（全学年） ③ 挿絵・図版・写真 ④ ウェブサイトとの連動 	<ul style="list-style-type: none"> ● 片仮名表記については、外来語と擬声語を基本とするほか、動植物名のうち和名以外を扱う。ただし、生物学的に説明する文章などでは、「ウミガメ」「クイナ」などと示す場合がある。 ● 新出漢字・前学年漢字ともに巻末「漢字を学ぼう」にまとめて一覧できるようにし、全て硬筆の模範書体を示すようにして、児童が教科書体活字と硬筆書体との微妙な差異に迷うことがないように配慮した。 ● 新出漢字は、読み方・用例・筆順を全て示している。 ● 前の巻までに学んだ漢字も、読み方を示し、家庭学習などでも児童が自ら学べるように配慮している。 ● 音訓索引配列を行い、まだ学んでない音に配列される漢字については、既習音訓でまず配列し、そこから参照ページへと導くようにして、児童が自ら学べるように配慮している。 ○ 特に、伝統的な言語文化に関する教材については、以下の原則にそって表記を整えている。 <ul style="list-style-type: none"> ● 漢字は、常用漢字表にある漢字は表に示された書体を用い（「人名に用いる漢字」を含む）、表外漢字は康熙字典体によった。 ● 送り仮名は、常用漢字表によった。表外漢字については、「送り仮名の付け方」（内閣告示 S48・6）を参考にした。ただし、近代の文学については、基本的に出典を生かした。 ● 作者名は、現代仮名遣いでルビを振った。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 本文・ルビとも現代仮名遣いに改めた。 ① 本文・ルビとも歴史的仮名遣いを用い、（ ）つき色文字で現代仮名遣いのルビを振った。 ② 語彙・文法は中古を基本とした。 ③ 近代文学では、明らかな誤記・誤植以外は修正を入れなかった。 ○ 本文・ルビとも現代仮名遣いに改めた。 ○ 挿絵・図版・写真は、児童の学習意欲を高めるもの、文章の理解を助ける資料性の高いものや、児童の想像を膨らませるイメージ豊かなもの、活動の手順や留意点をわかりやすく示すものなど、学習上必要なものを十分に取上げている。 ○ 学習時に参照できる資料等を、ウェブサイトで見られるようにしている。（例：児童例の別バージョンや補完版、資料画像等） まなびリンク https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/m-link24/kokugo/index.html
---	---

(2) 造本・装丁

<ul style="list-style-type: none"> ① 造本・印刷・堅牢性・耐久性 <ul style="list-style-type: none"> ● 表紙・用紙・印刷 ● 製本 ● 上・下巻の分冊による構成 ② 表紙・デザイン <ul style="list-style-type: none"> ● 表紙絵 ● 紙面デザイン ● カラーユニバーサルデザイン ● 特別支援教育への配慮 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 表紙は堅牢で環境に配慮した特殊コーティングを採用、紙は軽量ながら裏移りのない再生紙、印刷は植物を原料とした大豆油インクを使用している。 ○ 環境に配慮しつつ、鮮明で読みやすい仕上がりとなっている。 ○ 製本は、くるみ・平綴じで、長期間の使用に耐える堅牢な方式を採用している。 ○ 児童が持ったときの重さに配慮すると同時に、学習意欲の面で一年に二回、新しい教科書と出会う期待と喜びを大切に考え、上・下巻の分冊にしている。 ○ 低・中・高の発達段階に応じたイラストを用いることで、どの絵も物語を感じさせ、それぞれの学年の児童の共感を得られるように意図されている。多様な色づかいはカラーユニバーサルデザインにも配慮し、明るく感性豊かな世界を表現している。児童の心に寄り添いながら、感性豊かな世界を表現しているものを採用している。 ○ 読みやすさを配慮した字詰め・行数を採用し、学習の支障となるような過度な色づかいを避け、読みやすく落ち着いたデザインに配慮している。イラストと文字の空きも十分とり、識別しやすいように配慮している。 ○ 色調のバランスだけでなく形の上でも区別しやすいように配慮したり、色による指示を含んだ設問や色に基づく活動を避け、児童の負担感をなくす工夫をしている。 ○ イラストや図版は、内容が区別できるような色づかいと色彩のバランスに配慮している。 ○ メモやカード、ノートなど学習の中で児童が自分で記入する制作物は、原則として色を付け、教科書上ですぐに記入例として識別できるようにしている。 ○ 1年生は、児童が読む際の負担を除くために、単語や文節の途中での改行を避け、意味のまとまりが理解しやすいように配慮している。 ○ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元では、学びのステップを常に確認できるように、「学習の進め方」の欄を設け、児童が学習の見通しをもち、本時で何を学習するかがわかるように配慮している。 ○ 学習の展開、学習の留意点、メモやカード、ノートなどの制作物の例示は、領域を超えて統一デザインとし、学び方が定着できるように配慮している。
--	---